

聖路加看護大学大学院

フューチャー！ナースファカルティ育成プログラム報告

Do your best,  
and it must be first class.

2013

# 実践の場での学びを支援する力をつける

## Clinical Nurse Educator (CNE) 育成コース

CNEは、優れた実践能力を教育に結びつけることのできる、看護教育の上級実践者です。本コースでは、EBNの実践と看護学と看護師への教育力を育成することをめざしています。

科目	単位
基盤科目	6
看護教育学	12
看護管理学	4
選択科目	9
CNEプラクティカム(実習)	6
課題研究	2
合計	39

NEW

### CNE育成コース

CNE: Clinical Nurse Educator



## 研究者・上級実践者としての力をつけながら教員力ものばす 全大学院生を対象としたプログラム



研究に参加したり、  
セミナーや相談を  
活用して  
研究力を高める

### 研究活動メンタリング

(修士・博士課程学生対象)







# フューチャー・ナースファカルティ 育成プログラム報告

## March 2014

### フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム(FNFP) がスタートしました!

本学のFNFPは、2013(平成25)年度の文部科学省の大学改革推進等補助金、看護系大学教員養成機能強化事業に採択されました。事業期間は2013(平成25)年度～2015(平成27)年度までの3年間です。

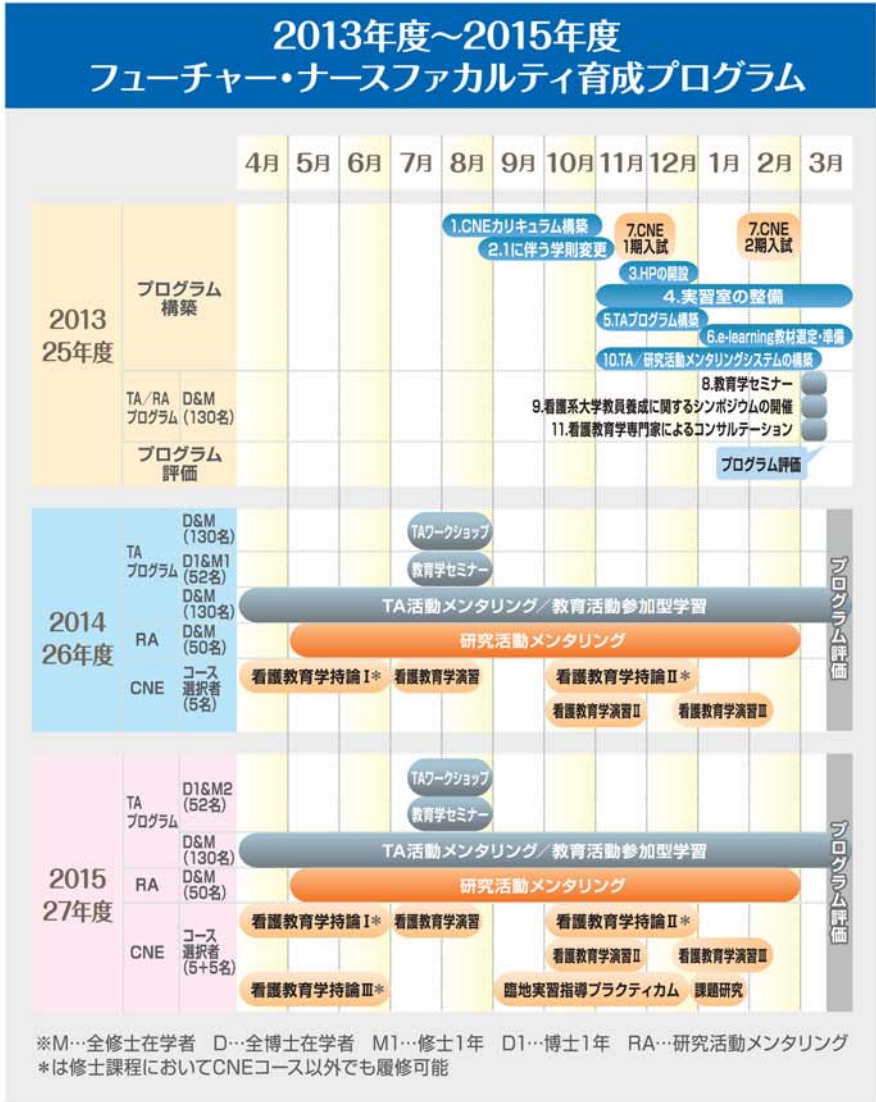
聖路加国際大学教授  
プログラムリーダー 松谷 美和子

**フューチャー・ナースファカルティとは?**  
看護系大学で教育を担う未来の看護系教員という意味です。このプログラムで育成するFNFPには、研究力に優れた研究教育者と実践力に優れたクリニカル・ナース・エドゥケーター(CNE)の両者を含みます。大学に軸足を置く教員と臨地に軸足を置く教員との協働により、より質の高い看護系大学教育を目指します。

**育成プログラムとは?**  
大きく2つの部分から構成されます。  
1. Clinical Nurse Educator (CNE) コース:これは看護教育学の上級実践コースです。  
2. 全ての大学院生を対象に、教育力、研究力を育成するプログラム  
■ TAプログラム…講義・演習・実習での教育力を育てます。  
● 教育学セミナー、TA ワークショップ、TA 活動メンタリング、社会貢献シャドウイング  
■ 研究活動メンタリング…自立した研究者としての能力を育てます。

**参加できるのは誰?**  
CNEコースは大学院入試に合格し、看護教育学上級実践コースに入学した大学院生を対象にしています。TAプログラムと研究活動メンタリングは、CNEコースの学生を含む、修士課程、博士課程に在籍するすべての大学院生を対象にしています。

**プログラム参加で育つ力は?**  
CNEコースでは、Evidence Based Practice、講義・演習のプログラム化・実施力・評価力が育つとともに、臨地実習の場を教材化して、状況に応じた学習を推進する力が育ちます。  
TAプログラムでは、看護大学の教員として必要な基礎的な教育実践能力が、研究活動メンタリングでは、一人前の研究者として必要な研究マネジメント力などの力が育ちます。





# フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム評価会

2013(平成25)年度の本プログラムの評価会を、3人の外部評価者を招いて行いました。

**日 時** 2014(平成26)年3月17日(月) 10時~14時

**場 所** 聖路加国際大学 301教室

**外部評価者** 武村雪絵氏 東京大学医科学研究所附属病院・副院長・看護部長  
大熊由紀子氏 国際医療福祉大学教授  
クリス・タナー氏 オレゴン健康科学大学教授

聖路加国際大学教授 吉田千文

松谷美和子プログラムリーダーほか、FNFP委員会メンバーからの実施報告後、外部評価者より次のようなコメントをいただきました。

本プログラムで目指している看護実践と教育・研究を結びつける人材の育成は、現在および将来において強く求められている。本プログラムではCNEの独自性をより明確に打ち出す必要がある。また、プログラムの推進において、看護学生の臨床判断能力を育てるためにナースファカルティに必要なコンピテンシーとプログラム内容との関連をより明確に示すことが大切だ。そして教育方法においては、経験からの学習を促進し、大学院生が臨地での経験を暗黙知から形式知へ転換していけるよう支援することが重要になる。理不尽なことが山積する看護現場において倫理的課題に毅然と対応できる人材、真に人々に貢献できる研究をうみだす人材育成を期待したい。

井部学長、菱沼研究科長を含む会場参加者を交えた活発な意見交換を通して、本プログラムの理解を深め来年度に向けた課題を明らかにすることのできる機会となりました。

## 文部科学省看護系大学教員養成機能強化事業

### 2013年度聖路加看護大学大学院「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」

**事業責任者** 井部俊子

**プロジェクトリーダー** 松谷美和子

**メンバー** 菱沼典子(研究科長)、吉田千文、奥 裕美、三浦友理子、倉岡有美子、八重ゆかり、森川雪絵、森島久美子、池口佳子、永森久美子、大隅 香、佐藤晋巨、上田貴子、佐藤祐子、長岡陽子(2014年度メンバーを含む)

文部科学省看護系大学教員養成機能強化事業

## 聖路加看護大学大学院「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」2013年度報告書

**発行** 2014(平成26)年4月

**編著者** 「フューチャー・ナースファカルティ育成プログラム」プロジェクト  
松谷美和子、吉田千文、三浦友理子、上田貴子、佐藤祐子  
〒104-0044 東京都中央区明石町10-1  
聖路加国際大学大学院看護学研究科

**デザイン** 株式会社アイピーティー ipt

**印刷** 〒102-0074 東京都千代田区九段南1-5-6 りそな九段ビル5F

**写真** 教育学セミナー・実習室整備・表紙部分：川口宗道  
その他：聖路加看護大学事務局・広報部提供





# 教育学セミナー

聖路加国際大学助教 三浦友理子

教育学セミナーは、大学での講義を展開する力を向上させることを目的としています。

以下の具体的な目標に基づきアクティブなセッションが展開されました。

- ・ 高等教育の現状
- ・ 学習者が主体的に学ぶ授業方法
- ・ シラバスの役割と作成法
- ・ 学習内容の評価方法

参加者には事前課題が提示され、各自が4分間の授業案と発表用のスライドを準備して、セミナーに臨みました。これを評価表に基づいて、参加者間でチェックしあい、強みや改善点などを共有しました。

その後、自身の授業案について、授業をデザインするための要素(目標や参加者をモチベートする価値)を明確化するワークを行い、4分の授業を精練しました。第1回目の模擬授業のビデオ録画を視聴して振り返り、2日目にもう一度模擬授業を行いました。

どの参加者の発表も、伝えたいことの焦点化、参加者を惹きつける授業提供スキルの改善が見られ、飛躍的に主体的な学びがおきる授業展開へと変化していました。



また、科目の設計図としてのシラバスについて、学習の評価方法の一例であるルーブリック\*について学習を行いました。最後はポスターセッションによる復習を行い、セミナーを修了しました。このセミナーでは、講義されている「内容」と同様に、それを教授する「方法」が多く紹介され、参加者の学びとなりました。

2日間というまとまった時間のセミナーでしたが、参加者からは第2弾を希望するとの感想も多く聞かれ、セミナーが充実していた様子と参加者のニーズの高まりが伺えました。

\*ルーブリック:学習の到達度を評価する基準のこと

## 教育学セミナー

# Voice, Voice and Voice

授業案作成の基礎から実践まで2日間で行い、充実したセミナーになりました。セミナーでは、事前課題、模擬授業、講義、演習、グループでのディスカッション、manabaを用いたリフレクションと講師からのフィードバックという多様な方法で学習が進められました。

参加者の声を紹介します。

参加者ひとり一人の授業に特色がありました。スライド一つにさまざまな教育的なしかけがあり、これは自分も取り入れたいと思いました。



「課題もあり、ちょっと大変なものに参加してしまったな」というのがセミナー申し込みから前日までの思いでした…が、興味深い内容でしかも面白く、あっという間に2日間が過ぎました。

この2日間、教授方法についてはもちろんのこと、「授業を受ける側である学生のことを考えながら情報を発信する」、という教授側にとって重要な心構えを学べたように思います。

受講者一人ひとりの話し方やプレゼンテーションの仕方について、細やかなアドバイスをいただき自分の癖や傾向を知ることができました。

大学院修了後に、現場に戻って研修会を企画したり、講師を担当するとき、学会で発表するときに、セミナーでの学習がとても役立つと思いました。



東京大学フューチャー・ファカルティプログラムの栗田佳代子氏、吉田壘氏が講師として、修了者の皆さんが学習補助者として参加してください、学習を熱心に支援してくださいました。





## 教員養成用実習室が整いました

教育コーディネーター 佐藤祐子

FNF専用の実習室を本館6階に整備しました。現在の基礎教育では、患者の人権を守るため、看護学生は実習で侵襲をとまなう看護技術を行うことはなかなかできません。実習室には、人体の構造を視覚的に把握し、フィジカルアセスメント、吸引・経管栄養や注射などを練習できるモデルや人形、乳幼児の人形があります。大学院生は、これらの教材を自由に使用することができます。

また、患者の急変場面やコミュニケーションの難しい患者との対応場面など、臨地実習の様々な場面で学生に教育的にかかわることを学習する場としても活用できます。



学生同士あるいは教員と一緒に、看護技術の指導方法を考え、練習することができます。

<実習室の整備物品の一例>

・ベッド(柵付き)と床頭台各4台、点滴台2台

・モデル

成人実習モデルさくらⅡ  
 筋筋注射部位クリア3Dモデル  
 吸引・経管栄養総合モデル  
 摘便・浣腸モデル、腕注射モデル  
 フィジカルアセスメントトレーニングモデル

乳児看護実習モデル  
 レサシジュニア  
 分娩助産モデルセット  
 妊婦外診モデル  
 など

## e-learning環境が整いました

大学院での学習効果を高めるためのe-learning環境が整いました。授業資料配布、レポート提出、掲示板などでの友人や教員との意見交換など、学内コミュニケーションがWebブラウザを利用したeポートフォリオシステム「manaba course2」を使って円滑に行えます。学外でもインターネットに接続可能なPC、タブレット端末から利用できます。



このシステムを通じて提出した課題は、学生個人の「ポートフォリオ」機能に蓄積されます。大学での日々の学習の軌跡を振り返り、自分自身の成長を確認できることでしょう。

## 看護学系大学教員育成に関するオープンレクチャー

日時 2014年3月15日(土) 14時～16時

場所 聖路加国際大学301教室

テーマ これからの看護と看護教育

講師

- 松谷美和子 聖路加国際大学教授  
 『日本におけるこれからの看護と、これからの看護教育』
- Dr. Cristine A. Tanner オレゴン健康科学大学教授  
 "The Future of Nursing & Nursing Education"

司会 田代順子 聖路加国際大学教授



優しい口調で、一人一人に問いかけるようなタナー博士の姿に、会場一同すっかり魅せられました。



教育コーディネーター 上田貴子

タナー博士は、オレゴン健康科学大学で看護学の教育を実践され、そのカリキュラムの構築に取り組んでいらっしゃいます。博士ご自身の取り組みをもとに「これからの看護と看護教育」について講演されました。

米国では、医療を取り巻く劇的な変化が看護の在り方をも見直すこととなったそうです。タナー博士は、看護教育を根本から見直すべくカリキュラムデザインを構築されました。その具体的な取り組みが紹介されました。

51名が参加した会場からは、「thinking like a nurse」の具体的な取り組みへの質問など、大学教育や臨床での教育に関わる看護職との活発な質疑応答が行われました。

\* thinking like a nurse: 臨床判断能力の育成を目的として開発されたプログラムの名称  
 参加者の内訳: 学内30人(教員17人、学生13人)、学外21人(大学9人、病院4人、その他8人)